

明日から体育の授業が進化する

【ゴール】児童生徒の資質・能力の育成

- ①知識・技能（何を理解しているか、何ができるか）
- ②思考・判断力・表現力等（理解している、できることをどう使うか）
- ③学びに向かう力・人間性（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

手段

主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善



【土台】教科の指導と生徒指導の一体化



自己決定の場の提供

共感的な人間関係の育成

自己存在感の感受

安心・安全な風土の醸成

合言葉は『何を指導するのではなく、何ができるようになるか』



そもそも、具体的に何をどうすべきなのかよくわからない・・・。

今までやってきたことをより一層磨いていけばいいんです



東葛飾教育事務所指導室

参考：佐賀県教育センター個別実践研究

参考：東京都多摩教育事務所所報

参考：東洋館出版社「深い学び」田村 学 著

参考：明治図書「子どもに任せる体育の授業」齊藤慎一著

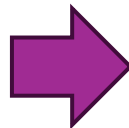
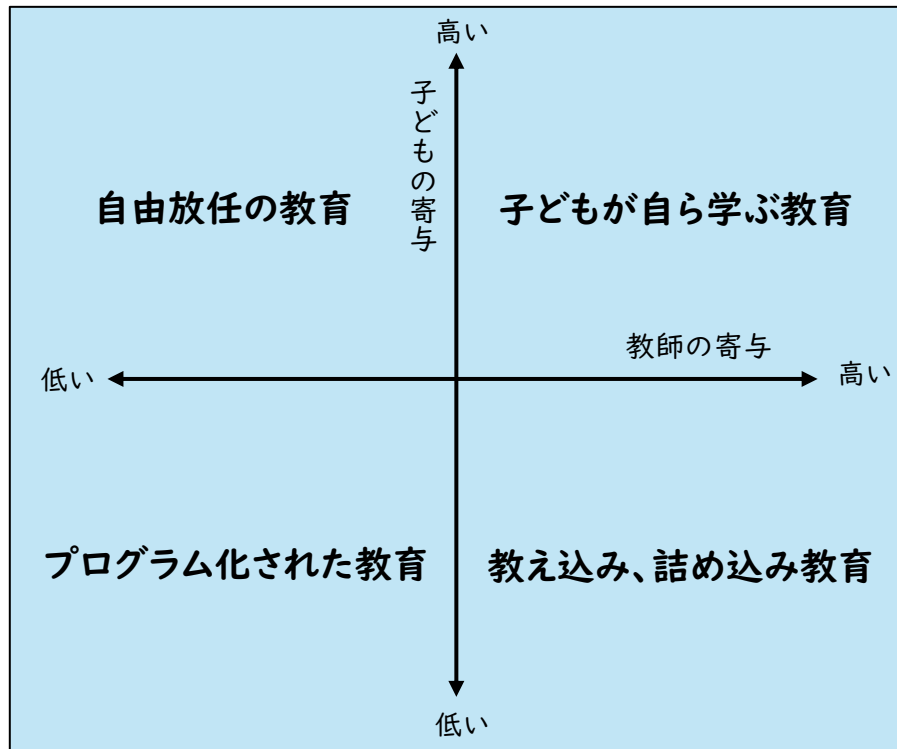
子どもと教師の役割の違い ~子どもも教師も主体的に動く~



「子どもが主体なのだから教師はあまり出てこない方がよい」



この考え方はちょっと違います！！



教師の役割	子どもの役割
①教材を決める ②子どもを見取る ③軌道修正/新視点の提示 ④学び方への振り返りを促す	①問い(課題)を決める ②学び方を選択・決定する

【保健体育】



個別最適な学び 具体的な実践例

<保健分野編>

～「セルフペース学習」～

- ①教師が作成した複数の動画教材
- ②子どもの理解度に応じて適切な教材を選ぶ
- ③自分のペースで視聴・資料を読み込み、Googleフォームなどで振り返りを提出
- ④授業中は、個別に質問対応や理解の浅い子どもへのフォロー

◆ポイント◆

- ・ 関心やレベルに合わせた学習可
- ・ ICT活用、**教師はファシリテーターに。**

<体育分野編>

～「選択制メニュー」～

- ①子どもの技能レベルに応じたメニューを用意（3段階程度）
- ②各自、自分に合ったグループやメニューを選択
- ③自分のプレー動画撮影・振り返り
- ④フォーム解析アプリ等を使い、個別にアドバイス

◆ポイント◆

- ・ 子どもが自己課題発見し、**主体的に改善へ向かう力**を育成
- ・ 他者比較せず、自己成長を重視

<評価方法編>

～「**ルーブリック**・ポートフォリオ」～

- ①個々に「到達目標」「成長の証拠」を明示
- ②ポートフォリオ形式で学習の過程・振り返りを蓄積
- ③**ルーブリック**に基づいて自己評価・相互評価・教師評価を組み合わせる

◆ポイント◆

- ・ 成果だけでなく**プロセスを重視**
- ・ 多様な評価方法により、生徒の努力や工夫も評価可能

【保健体育】



協働的な学び 具体的な実践例

<保健分野編>

～「グループ
ディスカッション」～

- ①小グループに分かれて話し合う
- ②話し合った内容をスライド等にまとめて、全体で共有
- ③他グループの発表に対して質問や意見交換を行う

◆ポイント◆

- ・多様な視点から物事を考える力の育成
- ・共感的な理解やコミュニケーション能力を育成

<体育分野編①>

～「作戦立案と実践」～

- ①チームごとに話し合いながら、自分たちの強み・弱みを踏まえた作戦立案
- ②試合で実践→振り返り
- ③改善点を話し合い、次の試合で修正して実施

◆ポイント◆

- ・作戦の立案と振り返りを通して、戦術的思考や対話力を育成
- ・勝敗だけでなく、協力するプロセスを重視

<体育分野編②>

～「ペア活動」～

- ①ペアで演技を撮影し合い、アドバイスをしあう
- ②チェックリストを使ってお互いの技の完成度を確認
- ③ペアで技を練習し、演技構成を一緒に考える

◆ポイント◆

- ・他者からのフィードバックを活かして技能を高める
- ・観察力・表現力・説明する力の育成につながる

『男女共習』に必要な4つのポイント



2017年告示「中学校学習指導要領解説保健体育編」

【原則として男女共習で学習を行う（文部科学省）】が求められた



知識や技能の習得に加えて・・・

「互いの理解と尊重を深める」ことが大きな目的として求められている

4つの
ポイント

<保健分野>

「知識の共有」

「お互いの立場の理解」

<体育分野>

「性別の偏見を取り除く」

「協力して課題解決する力の育成」

生徒が安心して学べる

心理的安全性の確保

恥ずかしさや羞恥心に配慮した

教材や指導法の工夫

性に関する内容を扱う際の

客観性と中立性の保持

生徒の理解や反応に合わせた

柔軟な指導

「心理的安全性の確保」→相乗効果を生む!



「心理的安全性」って??

- 自分の意見や思いを安心して表現できる状態
- 否定・嘲笑の不安なく、挑戦できる雰囲気
- 「失敗しても大丈夫」という安心感



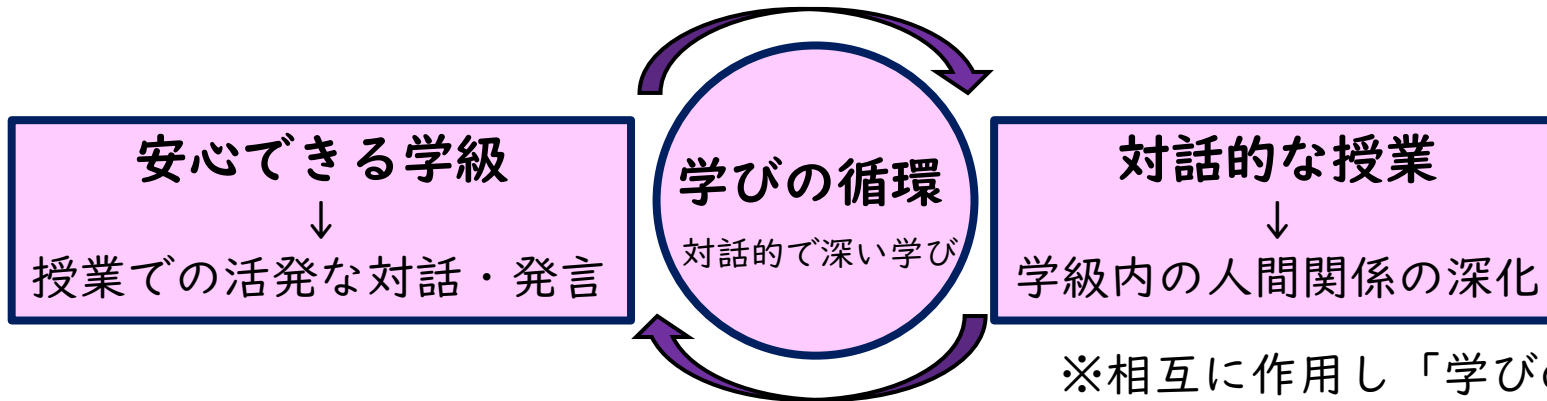
「心理的安全性」はなぜ必要か??

授業：発言が活発になり、思考が深まる
学級：信頼関係が育ち、協働的な活動が促進される
共通：「学ぶ力」「人と関わる力」の土台になる

教師に求められること

- ①どんな発言も一度受け止める
- ②誤答の価値を認める・否定しない
- ③日常の声掛けや表情で「安心できる場」を演出
- ④生徒同士の関係づくりを丁寧に支援する

学級と授業の
相乗効果!



※相互に作用し「学びの循環」を生む

「心理的安全性」 = 「信頼」「挑戦」を生み出す土台